

登録コード	UAA44500	開講年度	2026				
授業題目	英語学実践演習					担当教員	伊藤 尽
						副担当	SPREADBURY ASH LEIGH
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・6時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標				授業で得られる「学位授与の方針」		【授業の達成目標】	
2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学							
【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					現在「英語学」と言えばEnglish Linguisticsという名称を思い浮かべる人が多いが、現在の英語学の基礎は19世紀のEnglish Philologyの確立にあったという事実を前にして、21世紀に改めて英語学English Philologyを研究する意味・意義について考えることができるようになる		
【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					文献学における資料の収集のノウハウを学ぶことで、21世紀の技術を利用した実践的な研究を行う方法を身につけることができるようになる		
(2)授業の概要		19世紀ヴィクトリア朝が英語学・英語学文献学に果たした先人の業績を今日的な視点で批評し、評価しながら、文献学としての英語学の価値を再認識する。 Matthew Townendの実証的、文献学的なアプローチを学ぶことで、英語の言語学資料の基礎を学ぶ。					
(3)授業計画		初回はセットテキストの紹介とJames Turner, Philology: The Forgotten Origins of the Modern Humanities (2000)のPrologueを読み、Modern Humanitiesの中でのEnglish Philologyという学問の立ち位置を確認します。 2回目以降はテキストを読む対面授業ですが、曜日と時限を変更し、受講生の都合に合わせた時間に授業を行います 以下のとおりに授業を実施します 2．Introduction: 読解と議論: James Turnerの議論を踏まえて、English Philologyについての様々な視点を知り、議論します。 3．Chapter 1: The Pioneers 読解と議論: (1)Early Studies, (2)Dignity and Dangerの2つの項目(agenda)について議論します 4．Chapter 1: The Pioneers 読解と議論: (3) J. C. Aitchsonの議論を踏まえて、考察します 5．Chapter 2: The Phoneticians 読解と議論: (1) The Study of Sounds, (2) Alexander Ellisを読み、音声学と音韻論の基礎的な概念や先行研究について理解します。 6．Chapter 2: The Phoneticians 読解と議論: (3) The Travels of Thomas Hallam, (4) The Existing Phonology of English Dialectsを読み、地域言語としての英語の音声学と音韻論が方言学研究の基盤となったことを認識し、議論します。 7．Chapter 3: Dialect and Literature: (1) Fiction, (2) Scholars and Sourcesを読み、19世紀の英文学作品が文献学としての英語学に貢献する意義について考察し、議論します。 8．Chapter 3: Dialect and Literature: (3) Poetry, (4) Remaking Poetic Dictionから、Owen Barfield, Poetic Diction ()の考え方に至る、言語研究における韻文の資料的意義について議論します。 9．Chapter 4: The English Dialect Society: (1) Origins, (2) Activitiesを読み、現在に至る英語方言学協会の意義について考察し、議論します。 10．Chapter 4: The English Dialect Society: (3) Membership, (4) Glossariesを読み、その意義を問い、議論します。 11．Chapter 5: Folklore and the Past: (1) Histories of Englandを読み、歴史文献と伝承学についての基礎を学び、議論します。 12．Chapter 5: (2) Philology and Folklore, (2) Folkloric Fictionを読み、文献学と伝承学との関係について議論します。 13．Chapter 6: The English Dialect Dictionaryを読み、Joseph Wrightの業績を再評価し、利用価値を21世紀の今再検証します。 14．Chapter 6: The English Dialect Dictionary のDialect Lexicography (1)-(3)を読み、方言辞書の成立過程について、方法論を学び、議論します。 15．Epilogue: Philology's Aftermathを読解し、English Philologyの未来について議論します。 期末試験 無					
(4)成績評価の方法		各回の授業内容に即して、受講生は調査、分析、考察の発表を行い、その発表の方法（プレゼン能力）、情報の正確さ（出典の確認）、視点のオリジナリティ（視野の広さや考察の深さ）を評価します 総論でまとめた内容は報告書として提出され、評価されることになります。 各回の発表の評価を60% 総論として提出された報告書の評価を40% として、総合的に評価します					
(5)成績評価の基準		各回の発表および報告書で、実証的・歴史的情報を精確に示すことを評価の基準として、以下の様に評価します 実証的・歴史的情報の精確な記述がされていることを水準 実証的・歴史的情報の精確さに加えて、要約が過不足無ければやや上 情報と要約の精確さに加えて、先行研究による補足・追加情報が加わればかなり上 セットテキストに関する以上の発表内容に、自分の研究のスタートアップが示されれば卓越している					
(6)事前事後学習の内容		セットテキストを事前に入手し、言及されている文献資料を確認し、発表原稿を作成することを事前学習とします 発表原稿を最終的にまとめ、報告書として提出する準備をすることを事後学習とします					

(7)履修上の注意	セットテキストに基づいて発表の準備をしなければならないので、履修希望者は早めに購入することが求められます。 購入が困難な人は相談してください また、Joseph Wright, English Dialect Dictionary, 6 vols. (Oxford: Frowde, 1898-1905) は、英語学資料室に収蔵されていますので、そちらも必ず参照してください。
(8)質問,相談への対応	質問、相談は授業中もしくはメールにて受け付けます j-tksitoを信州大学アカウントの前に付けて下さい
【教科書】	Matthew Townend. The Victorians and English Dialect: Philology, Fiction, and Folklore. Oxford University Press, 2024. ISBN 9780198888123
【参考書】	Owen Barfield. Poetic Diction: A Study of Meaning. 2nd ed. Wesleyan edition. Foreword by Howard Nemerov. Wesleyan University Press, 1973. ISBN: 9780819560231 James Turner. Philology: The Forgotten Origins of the Modern Humanities. Princeton University Press, 2000. ISBN: 978-0691168586